

2021 年度事業報告

1. 組織体制

館長 小野田俊蔵（歴史学部教授）
研究協力者 安藤 佳香（歴史学部教授）、佐古 愛己（歴史学部教授）
八木 透（歴史学部教授）
兼任学芸員 斉藤 利彦（歴史学部教授）
専任学芸員 熊谷 貴史（契約専門職員）、長谷川奨悟（契約専門職員）
事務局 山口 乾（課長）、木村 恵美（派遣職員）

2. 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が前年度に引き続き京都府および近隣府県に繰り返し発令され、事業運営に少なからぬ影響を受けた。

展示については、前年度に策定した感染防止対策ガイドラインに即した対策を講じながら、年間を通じて年度当初の予定どおり開催した。

シアター行事については、開催時期の新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、以下の対応を行った。また、地域連携・社会貢献活動については、例年実施する活動はほぼ休止を余儀なくされた。

行事名	時期	開催方法
学術シンポジウム「都市祝祭－歴史地理学者にはどう見えるのか？－」	7/18 (日)	一般社団法人人文地理学会歴史地理研究部会と共催。ハイブリッド型（会場参加とオンライン参加の併用）
公開講演会「広沢と和歌・短歌」	9/11 (土)	無観客にて実施し、記録映像をオンデマンドコンテンツとして公開（一部出演者はオンライン参加）
特別展開連講演会「ほとけのカミ～オシャレの向こう側～」	11/14 (日)	集客開催（定員 70 名、先着順）
シアター上映会「城屋の揚松明」	11/28 (日)	集客開催（定員 70 名、Web による事前申込制）
第 46 回シアター公演「民俗芸能を担う若者たち 京都こども六斎教室」	3/6 (日)	Zoom によるオンライン開催を予定していたが、コロナ感染拡大を受けて開催を中止

3. 展 示

◇2021年4月10日(土)～5月15日(土)(日曜・祝日休館)

平常展示「祈りと祀り、そして暮らし」

会 場：第一・第二展示室

来館者：80名

内 容：「嵯峨野学事始」および「園部校地出土の考古資料」を展示した。

◇2021年6月5日(土)～7月18日(日)(日曜・祝日休館)

企画展「もっとみせて！北村コレクション～チベット仏敎の癒しと救い～」

会 場：第二展示室

来館者：608名

内 容：北村太道氏(種智院大学名誉教授)によって蒐集された、チベット密敎の儀礼・儀式にかかわる仏像・仏画・法具などの北村コレクションを展示した。

※当初は中国古銭を題材とする企画展を予定していたが、企画者である本学教員の病気休職にともない、急遽、北村氏のご協力をいただき開催した。

◇2021年9月1日(水)～10月1日(金)(日曜・祝日休館)

平常展示「祈りと祀り、そして暮らし」

会 場：第一・第二展示室

来館者：128名

内 容：「嵯峨野学事始」および「園部校地出土の考古資料」を展示した。

◇2021年10月30日(土)～12月4日(土)(月曜休館)

特別展「ほとけのヘアスタイルーそれは単なるオシャレではないー」

会 場：第一展示室

来館者：1301名

内 容：仏尊／仏像の部位に焦点を当てたシリーズの第二弾。頭髪に焦点をあて、五劫思惟阿弥陀や清涼寺式釈迦など特徴的な髪型をみせる作例や、現役仏師による新造品を含め約50点を展示した。

本展では、仏師僧の前田昌宏氏より深甚なご協力を得た。開催にあわせて五劫思惟阿弥陀如来坐像を制作していただき、制作過程の記録とともに展示した。また別途、前田氏が制作中の不動明王半跏像も展示に加え、会期中、適宜館内で制作を進めていただき、その様子を来館者が見学できる場を設けた。



図1 春期の企画展チラシ



図2 特別展チラシ



図3 冬期の企画展チラシ



図4 特別展 展示風景



図5 特別展 附属幼稚園児の見学

◇2022年1月11日(火)～1月31日(月)(日曜・祝日休館)

平常展示「祈りと祀り、そして暮らし」

会場：第一・第二展示室

来館者：71名

内容：「嵯峨野学事始」および「園部校地出土の考古資料」展示

◇2022年2月19日(土)～3月19日(土)(日曜・祝日休館)

企画展「佛大逍遙Ⅷー美術史の資料を紐解くー」

会場：第一・第二展示室

内容：佛教大学に在職した美術史研究者に焦点をあて、特徴的な業績を紹介。中心的なトピックとして、「雲氣化生説」「霊木化現仏説」など独自の学説を唱えた井上正氏(元佛教大学教授：1995～1999年在職)の業績を中心に据え、井上氏の研究資料、撮影スライド、執筆論文、公開講座の資料のほか、霊木化現仏説を象徴するような「木造僧形立像」(滋賀・鶏足寺/己高閣)などを展示し、美術史の奥深さと楽しさを紹介した。

4. シアター行事

◇2021年7月18日(日)13:00～17:00

学術シンポジウム「都市祝祭ー歴史地理学者にはどう見えるのか?ー」

共催：一般社団法人人文地理学会 歴史地理研究部会

会場：宗教文化シアター

開催方法：ハイブリッド型(会場参加とオンライン参加の併用)。会場参加は部会の京都近郊在住の希望者に限定、その他の部会参加者はオンライン(Zoom)参加。

参加者：会場参加29人、Zoom参加75人

内容：現代日本の都市祭礼、都市祝祭を事例とし、そこでみられるハレの場の空間的特徴や空間構造、祭りの構成員と観客の変化、祭り関係者としての立場・経験等を導きに、複眼的な視点から都市祝祭について議論し、歴史地理学がどのように向き合えるのかを検討した。なお、本シンポジウムの内容は、学術報告書としてまとめ、刊行した。

研究発表1 内田 忠賢氏(奈良女子大学)

「戦後復興の中で創出された都市祝祭とその後の展開」

研究発表2 三隅 貴史氏(関西学院大学)

「地域住民ー地域外参加者関係からみる江戸・東京の祭礼史」

研究発表3 佐藤 弘隆氏(立命館大学)

「近代京都の都心部における持ち家率低下に伴う祇園祭山鉾行事への影響」

コメント 網島 聖 (本学歴史学部)

統括 八木 透 (本学歴史学部)

◇2021 年 9 月 11 日 (土) 14:00~17:00

公開講演会「広沢と和歌・短歌」

会場：宗教文化シアター

開催方法：無観客での講演の収録と、当館シアターと京都府立北嵯峨高等学校の生徒代表が集まる会場を Zoom でつなぎオンラインによる歌合せを実施し、当館 Web 内のオンデマンドコンテンツとして記録映像を公開。

内容：第 1 部では嵯峨・広沢の地域性、歴史と文化、和歌・短歌をテーマとする講演、第 2 部では嵯峨・広沢を詠んだ短歌をもとに歌合せを行った。

■第 1 部 講演

講演 1 長谷川奨悟 (当館学芸員)「嵯峨広沢の地域性」

講演 2 佐古 愛己 (佛教大学歴史学部教授)「嵯峨・広沢の歴史と文化」

講演 3 坪内 稔典 (佛教大学名誉教授)「嵯峨・広沢と和歌・短歌」

■第 2 部 「令和の歌合せ」

出演者：小野田俊蔵、坪内稔典、佐古愛己、京都府立北嵯峨高等学校の皆さん

◇2021 年 11 月 14 日 (日) 14:00~15:30

特別展関連講演会「ほとけのカミ～オシャレの向こう側～」

会場：宗教文化シアター

開催方法：集客開催 (定員 70 名、事前申込不要)

参加者：60 名

講師：熊谷貴史 (当館学芸員)

内容：担当学芸員が特別展「ほとけのヘアスタイルーそれは単なるオシャレではないー」の見どころを紹介した。

◇2021 年 11 月 28 日 (日) 14:00~17:00

シアター上映会「城屋の揚松明」

会場：宗教文化シアター

開催方法：集客開催 (定員 70 名、要事前申込)

参加者：16 名

上映：「城屋の揚松明」(2020 年 1 月、城屋の揚松明記録作成事業実行委員会)

解説：八木 透 (佛教大学歴史学部教授)

内容：民俗学的見地からの解説と、記録映像の上映を通じて京都府舞鶴市城屋地区に伝わる松明行事について紹介した。

(開催中止) (開催予定日：2022年3月6日(日) 13:00~16:30)

第46回シアター公演「民俗芸能を担う若者たち 京都こども六斎教室」

会場：宗教文化シアター

出演：京都こども六斎教室連絡会に参加するこども六斎教室4団体

解説：福持 昌之氏 (京都市文化財保護課)

柿本 雅美氏 (大津市文化財保護課、元当館学芸員)

内容：日本各地に伝承されてきた無形民俗文化財の継承・伝承のあり方や後継者育成をめぐる問題に焦点をあて、芸能や伝統行事の継承団体や地域コミュニティによる次世代への継承に関する取り組みを紹介するシリーズ企画「民俗芸能のネクストジェネレーションズ」の第二弾。京都の代表的な民俗芸能の一つである京都六斎念仏の後継者育成の取り組みと、京都市による行政支援の実践とのかかわり方を紹介することを目的に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の急速な感染拡大を受け、こどもたちの安全と活動を守るため、やむなく開催を中止した。なお、本問題の取り組みを紹介するため、解説パンフレットを刊行した。



図6 学術シンポジウムチラシ



図7 シアター上映会チラシ

5. 学術報告書の刊行

- ・『都市祝祭－歴史地理学者にはどう見えるのか？－』（2021 年 12 月刊行）

7 月 18 日（日）に開催した学術シンポジウム（人文地理学会歴史地理研究部会との共催）に関する各出演者による論文やコメント、総合討論を収録し、刊行した。

- ・『円頓戒－どう伝え、どう持つ？－』（2022 年 1 月刊行）

2021 年 2 月 6 日に開催した学術シンポジウムの開催報告を、各講演者が加筆修正し、シンポジウム開催当日に受けたすべての質問に対する回答（Q&A）、池上良慶氏提供の『授菩薩戒儀』の四本比較対照テキストも掲載して刊行した。

6. 博物館実習生の受け入れ

実習日：8 月 23 日（月）～8 月 26 日（木） および 11 月の 5 日間

実習生：通学課程 24 名（他館不足日数の学生を含む）

11 月の 5 日間は通学課程 22 名が 1 日ずつ、2 名が 5 日間

内 容：博物館資料の計測実習、考古資料、前川家資料、大学史資料の整理・クリーニング作業、9 月平常展示のための展示パネル制作、過去の展示パネルの整理と資料化など学芸業務の一環を体験し、資料をデジタル化することの意義についての講義などもおこなった。

7. 地域連携・社会貢献活動

◇佛教大学ホームカミングデー

新型コロナウイルス感染防止をふまえ、本学での対面開催は中止され、11 月 3 日（水・祝）、Web 上でのイベント発信とされた。当館は広沢キャンパス正門からミュージアムの館内までの動線を紹介する映像コンテンツを制作し、「バーチャルミュージアム」として配信した。

◇京都・大学ミュージアム連携

「京都・大学ミュージアム連携スタンプラリー」（9 月 11 日～3 月 26 日）に参加した。

◇京都市内博物館施設連絡協議会

「第 25 回京都ミュージアムロード」（1 月 26 日～3 月 21 日）に参加した。

◇ミュージアム体験学習会、浄土宗寺宝めぐりツアー

近隣小学校を対象とした「小学生体験学習会」、一般人を対象とした「浄土宗寺宝めぐりツアー」は、新型コロナウイルス感染防止のため開催を断念した。

◇京都市役所本庁舎議場壁面クロス再現への協力

当館が保管するスライド資料（竹田聴洲資料）の画像（図8）を提供し、2021年度の京都市庁舎議場の改修工事に伴う市庁舎議場建設当時の壁装の復元に協力した。

京都市では、2021年度竣工の市庁舎改修工事にあたり、創建当時の意匠に再現した議場の内装を企画していたが、創建時の壁装を記録したカラー写真が残存せず苦慮していたところ、

当館が保管する竹田聴洲資料の中に、昭和35年に議場内を撮影したカースライド（祇園祭くじ取式の写真）があることが判明した。2018年、壁面装飾織物の制作を担当する株式会社川島織物セルコンより依頼を受け資料を提供。川島織物がスライドを分析した結果、昭和30年代当時の議場壁装の織物紋様が芍薬（しゃくやく）の花と葉のモチーフであると推定され、議場壁装のデザインが決定された。



図8 提供したスライド資料

◇嵯峨大念佛狂言保存会による令和3年度文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）の「京都の文化遺産総合活性化事業」を活用した「映像でみる京と右京に伝わる伝統芸能」（図9）への協力

嵯峨大念佛狂言保存会の要請を受けて、当館が管理する昭和30年代の竹田聴洲フィルム資料および佛教大学民間念佛信仰研究会が記録蒐集した視聴覚資料を提供したほか、2022年1月22日（土）に開催されたイベントに当館学芸員の長谷川奨悟が出演し、民俗芸能に関する過去の記録映像のデジタル化について解説した。



図9 活性化事業（ゼスト御池）